

2020年度 SF入学試験	学部 商学部	試験科目 小論文
------------------	-----------	-------------

次の文章を読んで解答用紙の設問に答えなさい。

アメリカンフットボールは、企業活動と似た要素で成り立っている。すべてがセットプレーであるこの競技では、対戦相手を徹底的に分析し、プレーをデザインする。そして、10ヤード前進するという短期的目標を計画に沿って次々にクリアしていくことで、最終的にタッチダウンという成果を獲得しようとする。こうしたゲームプランニングの手法は、マーケティングに近い。相手が何を好み、どういう行動をとりやすいかを予め調査して、最も効果的な商品の開発と販売方法を考えるマーケティングの精神と酷似しているのだ。

企業活動とこの競技に共通する計画性の重視は、偶発的要素の排除に通ずる。企業はマーケティングを基に、想定した利益の確保に向けて、障害となる不確定要素を極力排除しようとする。一方のアメリカンフットボールも、緻密な計画とリハーサルによってプレーの精度を上げ、偶発的ミスを極力減らそうとするのだ。

企業活動もアメリカンフットボールの試合も、実際には予測通りにいかないことが多い。だがともに両者は、予測可能性と実行可能性の精度を高め、不確定要素に徹底的に挑戦しようとする。それは、偶然が入り込んで計画が狂うリスクを最小限にしようとする欲望を体現している。そして実際、19世紀後半のアメリカの工場労働の現場でも、こうした発想に裏打ちされたテイラーシステムという科学的経営管理の手法が存在感を増していた。

フレデリック・テイラーは、1870年代にフィラデルフィアの製鉄工場を舞台に、従業員をどのように配置し、どう作業させれば最も生産効率が上がるかを、ストップウォッチを使って計測した。作業の動作をいくつもの段階に分け、各段階を最短で行うには機械と人間の位置関係や人間の動作がどうなればよいかを彼は明らかにしようとした。この種の科学的実験結果に基づく最適な生産体制は、テイラーシステムと呼ばれるようになる。

テイラーにとって生産の最大化は、不確定要素を徹底的に排除した作業モデルを構築することに等しかった。そして、労働者があたかも時計を内蔵した機械の如く正確に作業できるよう訓練することが、有効な経営管理につながると信じていた。こうした理念は、タイミングをはかって目標地点に正確にパスを投げ込む練習を繰り返す、アメリカンフットボールを彷彿させる。産業社会の工場労働者とアメリカンフットボールの選手は、根本的には同じことを要求されたわけである。現に、テイラーシステムの成立と、キャンプがアメリカンフットボールのルールの整備に乗り出したのとは、時間的にもほぼ一致している。

実際、アメリカンフットボールは産業社会の工場労働を支える原理との親和性が高い。ポジションが細分化され、各自が決められた動きをすることで組織としての成果を最大化するというこの競技の理念は、分業化・専門化・組織化によって生産効率を上げようとした産業社会の基本原則と重なる。テイラーシステムは、こうした産業社会の基本原則の究極の姿であり、単位時間当たりの成果の最大化に向けて空間と行動を最適化しようとする。偶発的要素を排除し、時間と空間と行動をコントロールできれば成果は最大化できるという信念は、テイラーシステムとアメリカンフットボールの競技理念に共通しているのだ。

しかも、ここで興味深いのは、この競技のルールを整備したウォルター・キャンプは、コネティカット州ニューヘイブンの時計製造メーカーが家業だったという点だ。コネティカット州は、19世紀のアメリカにおける時計産業の拠点の一つだった。テイラーシステムの登場がアメリカの産業革命の到達点だとすれば、人間の手で時間を管理する能率至上主義への道を開いた時計の量産は、産業革命の入り口というべき位置にある。それら両方との接点を感じさせるアメリカンフットボールは、まさに産業社会の申し子であり、その競技としての成立過程は、金びか時代から規制と改革の時代への転換ともまさしく符合していた。

(出典：鈴木透『スポーツ国家アメリカ』中公新書、2018年、60-63頁より引用。)

以上

